

令和5年8月28日

令和5年度全国学力・学習状況調査結果（速報）

奄美市教育委員会

1 実施の状況

【調査日】令和5年4月18日（火）

【教科に関する調査】

出題内容は、下記①と②を一体的に問うもの

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のために構想を立て実践し評価・改善する力等

【質問紙調査】

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

2 教科に関する調査の結果

(1) 市の平均正答率〔令和5年度〕 ( )内は、全国との差

	国語	算数・数学	英語
小学校6年生	65 (−2.2)	62 (−0.5)	—
中学校3年生	65 (−4.8)	42 (−9.0)	38 (−7.6)

英語は、平成30年度の悉皆調査以来の実施

《参考》 過去3年間の学力調査の結果

〔令和4年度〕

	国語	算数・数学	理科
小学校6年生	64 (−1.6)	61 (−2.2)	<b>66 ( 2.7)</b>
中学校3年生	67 (−2.0)	43 (−8.4)	47 (−2.3)

〔令和3年度〕

	国語	算数・数学
小学校6年生	<b>66 (1.3)</b>	69 (−1.2)
中学校3年生	<b>65 (0.4)</b>	55 (−2.2)

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による休校等で中止

〔令和元年度〕

	国語	算数・数学	英語
小学校6年生	67 (−2.2)	66 (−0.6)	
中学校3年生	66 (−6.8)	70 (−10.8)	48 (−8.0)

## (2) 結果の概要

- ア 小学校算数が、前回よりも全国平均との差が小さくなり、成果が見られるが、他の学年、教科では、全国平均を下回っている。特に、中3は、全ての教科で、全国を大きく下回り、課題が顕著である。
- イ 小6国語では、「書くこと」「読むこと」の領域で全国平均を上回っていることから、この領域における、思考力、判断力、表現力等の育成が図られつつある。
- ウ 小6算数では、思考・判断・表現の観点や記述式の問題形式で全国並みの正答率となっており、力が付いてきていることが伺える。
- エ 小6算数では、図形とデータの活用が全国を上回っている。
- オ 中3では、全ての教科国語と数学は、知識・技能、思考・判断・表現の観点ともに全国の正答率を下回っている。特に、英語は、基礎的・基本的な内容の定着の課題があることが顕著である。

## 3 児童・生徒質問紙の概要

### (1) 小学校

- ア 全国平均より肯定的な回答が特に高かった質問項目  
項目「将来の夢や目標を持っていますか」  
項目「学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは、役に立つと思いますか」
- イ 全国平均より肯定的な回答が特に低かった質問項目  
項目「自分には、よいところがあると思いますか」  
項目「人が困っているときは、進んで助けていますか」  
項目「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」
- ウ その他の主な質問事項の分析
- ・ 5年生までに受けた授業でのICT機器の活用」に対する肯定的な意見の割合が多い。
  - ・ 平日における学校の勉強時間以外に勉強する時間や週末の勉強時間が少ない。

### (2) 中学校

- ア 全国平均より肯定的な回答が特に高かった質問項目  
項目「今、住んでいる地域の行事に参加していますか」
- イ 全国平均より肯定的な回答が特に低かった質問項目  
項目「自分には、よいところがあると思いますか」  
項目「人が困っているときは、進んで助けていますか」  
項目「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」
- ウ その他の質問項目の分析
- ・ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることへの肯定的な意見の割合が多い。
  - ・ 「平日（月曜日から金曜日）に、学校の授業時間以外にどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾、家庭教師、インターネット活用の学習も含む）」の回答で、2時間以上の割合が少ない。

## 4 考察等

本市の学力は、取組の成果が出てきている面もあるが、学年が上がるにつれ課題が顕著になっている。本市では、学力向上に向けて、「授業改善」と「基本的な生活習慣に基づく家庭学習の充実」を2本柱として取り組んでいる。特に、授業改善では、児童・生徒が主体的・協働的に自らの考えを深める授業を展開した上で、授業の終末時での「確かめ・見届け」を確実に実施し、児童・生徒の理解度や定着度を教師が把握し、習熟を図ることを重点的に指導してきている。今後も、児童・生徒の定着度を的確に見取り、個別指導や家庭学習に生かすこと、AIドリル等のICT機器を効果的に活用し、基礎的・基本的な内容の習得を図ることに取り組んでいく。

学力向上のみでなく、児童・生徒の「自己肯定感」の醸成にもつながるものであるため、児童・生徒に寄り添いながら学力を高めていく必要がある。